

此海濱江店を授け今藤上龍舟
 在り常以成法法形皆事其為論其
 實則高者致之愛一書常同其入海
 面成舟行初知一利過之二次海濱
 是年一歲今一書常一書常事其
 於我一身一歲死擲手在死其同伴
 常事其年其年之同方讀書其書
 不亦一書常事其年其年其年之野
 其長也其年其年也其年其年其年
 一人其年其年其年其年其年其年
 其年其年其年其年其年其年其年

店法度作法 兼 吳兒之事

此書讀時極中集行候
 之礼釋張つし届相守之勤儀
 其作候式法合候我候御り
 出出のり候一巻店之指本と

第1図

矢 李分とてふふもりの人
 一ヶりり利の二一絶有
 法 其も物守ら利もとて其をに
 一のと一書け事とてや

一為人君止仁為人臣止敬
 為人子止孝為人父止慈
 與國人交止信

矣
 今との書甘之屋敷の何女彼ツワ
 仍し掛つ候ツワ大威候不無志
 今も高つて銀り候ツワ抑う
 但し付道理り工支つてまひ上

第2図



第3図

口 絵 伊豆蔵五兵衛の店則「店法度・作法并異見之事」

口 絵は「店法度・作法并異見之事」の写真で、第1図は史料冒頭部分、第2図は末尾部分、第3図は署名部分の拡大である。史料の概要・内容については、本誌史料紹介「貞享五年・伊豆蔵五兵衛「店法度・作法并異見之事」——伊勢商人の江戸店の店則——」を参照されたい。

(下向井紀彦)